

年 報 第 43 号

(平成28年)

一般財団法人 みどり健康管理センター

ご あ い さ つ

みどり健康管理センターが1972年に開業してから、44年が経過しました。10年以上受診されているリピーターも数多くおられます。デジタル化して3年になりました。当センター人間ドックの特徴は、当日3時間以内でコンサルタント医師による血液・X線など結果説明ができることです。デジタル化と検査の効率化によって、受診時間はさらに短縮されています。

胸部X線、胃部X線、胸部CTスキャン、マンモグラフィ、腹部超音波、眼底写真、心電図、胃内視鏡の画像も年々蓄積されてきました。受診者に前年・前々年の画像と比較して観てもらうことが容易にでき喜ばれています。

2015年度の日本の医療費は41.5兆円で、高度医療と高額な新薬の登場に急激に増加し、前年度に比べ3.8%増えました。日本のGDPに対する医療費は11.2%と、OECD諸国の平均8.1%に比べ、35か国中3位になっています。人間ドックは、がんの早期発見に役立ちます。早期発見と早期治療により、がんの治療も可能になり、しかも医療費を抑制できるのではないかと考えています。

肺がんの早期発見には、胸部CTスキャンが有用です。喫煙1日20本を20年以上つづけておられる方は肺がんになりやすく、オプション検査の胸部CTスキャンをお勧めします。胃がんのリスクを考えると、ピロリ菌の検査を行い、ピロリ菌陽性の人は除菌するとよいでしょう。前立腺がんが、1年間で9例と増えています。男性はPSA検査を行うことをお勧めします。

日本人の平均寿命は男性80.50歳、女性86.83歳となり、日本の高齢者人口は26.7%と超高齢化社会となっています。元気で長生きする健康寿命を延伸させるには、病気にならないよう予防することが重要です。そのためには、人間ドックを受けて、どのようなリスクがあるか知ることが必要です。

超高齢化社会の中で、認知症も問題となっています。メタボリックシンドロームは脳動脈硬化症を引き起こし、認知症にもなりやすくなります。食生活・運動・喫煙など生活習慣を改善することにより、脳動脈硬化症を減少させることができれば、認知症も減少すると考えられます。

食べすぎ、飲み過ぎに注意し、内臓脂肪を増やさないようにしましょう。LDL(悪玉)コレステロールの多い方は、飽和脂肪酸の多い揚げ物やフライ物を食べすぎないようにしましょう。牛乳も健康にいいからと飲み過ぎると、LDLコレステロールが増加します。適量にしましょう。

糖尿病の人が、低血糖を繰り返すと、認知症を起こすことが明らかになっています。2016年5月、日本糖尿病学会はインスリン注射や低血糖を起こす可能性のある糖尿病薬を服用している65歳以上の人のHbA1cの下限値を設けました。低血糖が起こらない程度にHbA1cを下げる必要があります。

最近、当センターで乳がん・胃がん・腎臓がんを早期発見した受診者の方から「みどりの健診を受けていてよかった」と、感謝されました。私ども健診に携わるものにとって、感謝の言葉をいただくだけで、やりがいを感じています。

受診者の皆さんとともに歩みつづけ、毎年、進化しつづける「みどり健康管理センター」を今後ともよろしくお願ひします。

平成28年10月

一般財団法人 みどり健康管理センター
所長 徳永勝人

図 2.1 性・年齢別受診者分布 (平成27年4月～平成28年3月)

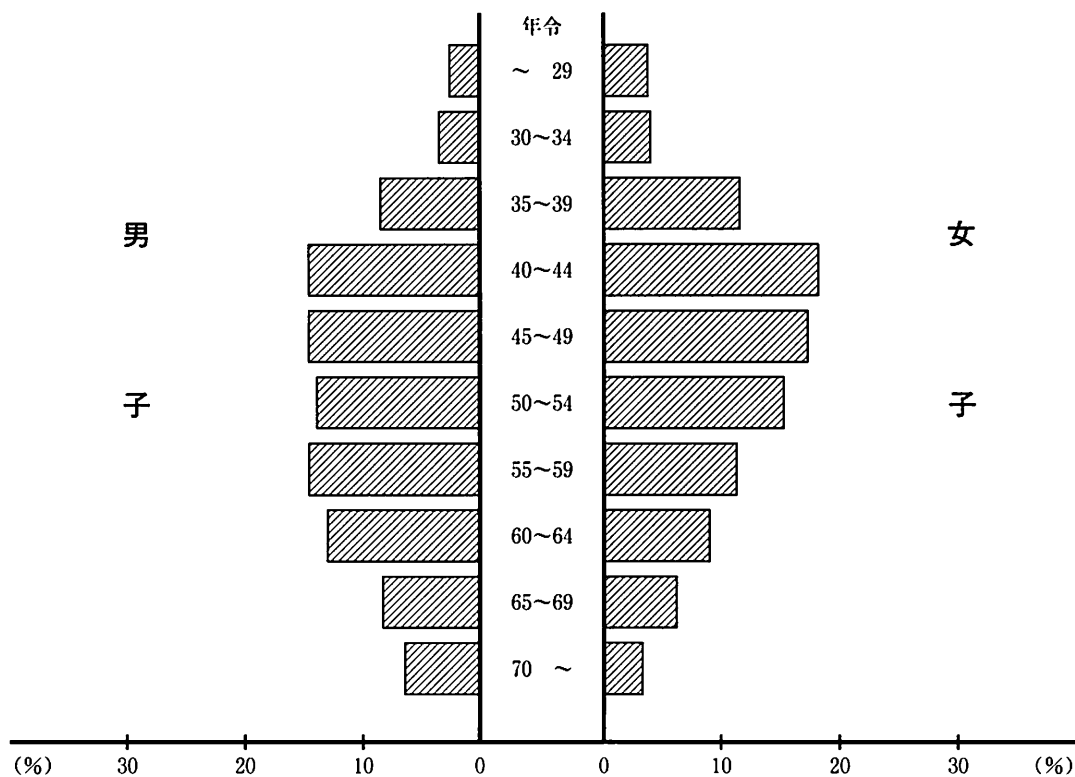


表 2.1 性・年齢別受診者数 (平成27年4月～平成28年3月)

年 令	性		性		合 計	
	男	女	男	女	合 計	合 計
	受診者数 (人)	%	受診者数 (人)	%	受診者数 (人)	%
～ 29	262	2.6	262	3.8	524	3.1
30 ～ 34	348	3.5	275	4.0	623	3.7
35 ～ 39	851	8.5	806	11.6	1,657	9.8
40 ～ 44	1,468	14.6	1,264	18.2	2,732	16.1
45 ～ 49	1,464	14.6	1,197	17.3	2,661	15.7
50 ～ 54	1,390	13.9	1,059	15.3	2,449	14.4
55 ～ 59	1,461	14.6	785	11.3	2,246	13.2
60 ～ 64	1,307	13.0	627	9.0	1,934	11.4
65 ～ 69	830	8.3	427	6.2	1,257	7.4
70 ～	644	6.4	231	3.3	875	5.2
合 計	10,025	100.0	6,933	100.0	16,958	100.0

3. 反復受診者についての検討（人間ドック受診者データ）

(1) 年度別にみた反復受診者数

当センターを2回以上反復して受診した人を表3.1に表わした。
本年度は90.2%で前年度比1.1%の増加となった。

(2) 受診回数別受診者数

平成27年度の反復受診率は男子「90.8%」、女子「89.2%」で男子が1.6%高くなっている。
受診回数別にみると、男女ともその比率はほぼ同じ傾向を示している。（図3.1、表3.2参照）

図 3.1 受診回数別分類（平成27年4月～平成28年3月）

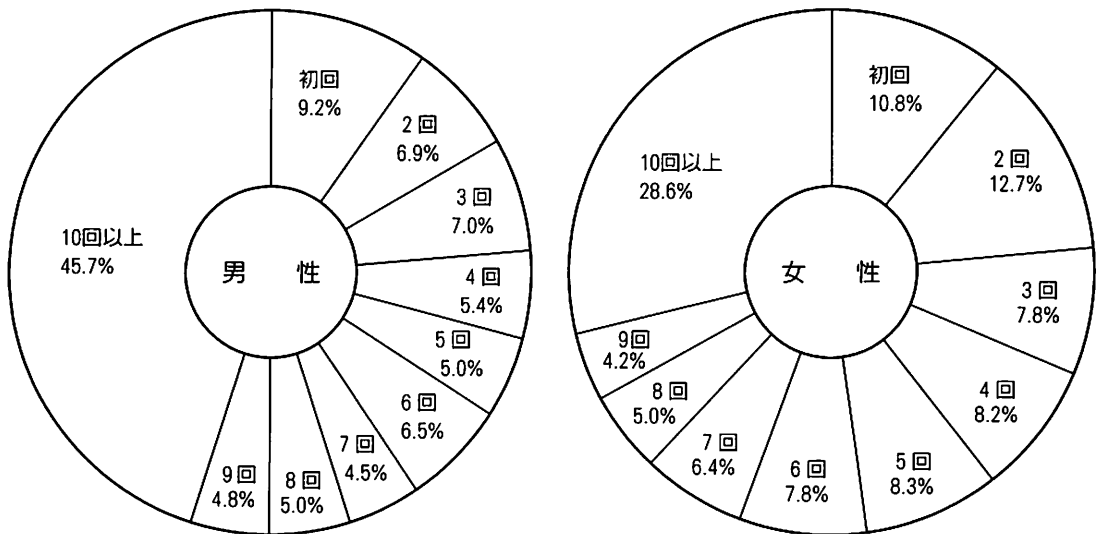


表 3.1 年度別受診者及び反復受診者数推移

年 度	人間ドック 受診者数(人)	反復受診者数(人)	反復受診率(%)	(生活習慣病予防健診) 受診者数(人)
7	21,052	18,322	87.0	
8	19,572	17,164	87.7	
9	18,674	16,322	87.4	
10	17,777	15,840	89.1	90
11	16,584	14,836	89.5	441
12	15,225	13,559	89.1	846
13	14,860	13,002	87.5	2,173
14	14,060	11,949	85.0	2,583
15	13,451	11,479	85.3	3,097
16	13,045	10,995	84.3	3,882
17	13,014	10,877	83.6	4,423
18	13,035	11,027	84.6	5,595
19	13,263	11,032	83.2	5,916
20	13,302	11,272	84.7	6,288
21	12,868	11,057	85.9	6,178
22	12,286	10,505	85.5	6,808
23	12,123	10,683	88.1	6,657
24	11,664	10,255	87.9	6,211
25	11,198	9,920	88.6	6,437
26	10,751	9,577	89.1	6,372
27	10,608	9,565	90.2	6,350

表 3.2 受診回数別受診者数 (平成27年4月～平成28年3月)・(人間ドック受診者データ)

回数	性 男		性 女		合 計	
	人 数	比率(%)	人 数	比率(%)	人 数	比率(%)
初回	591	9.2	452	10.8	1,043	9.8
2	444	6.9	531	12.7	975	9.2
3	451	7.0	327	7.8	778	7.3
4	346	5.4	345	8.2	691	6.5
5	324	5.0	349	8.3	673	6.3
6	418	6.5	328	7.8	746	7.0
7	289	4.5	267	6.4	556	5.2
8	322	5.0	211	5.0	533	5.0
9	306	4.8	174	4.2	480	4.5
10以上	2,935	45.7	1,198	28.6	4,133	39.0
合 計	6,426	100.0	4,182	100.0	10,608	100.0

4. 診断結果

平成27年度に受診した人間ドック10,608人の診断結果を(1)性・年齢、(2)癌、(3)主要疾患別に集計した。

(1) 性・年齢別総合診断結果

性別にみた受診者の内訳は男子6,426人(60.6%)、女子4,182人(39.4%)である。

異常なしと判定された男子1.7%、女子4.3%は昨年度に比較して男子は0.6%の減少、女子は0.7%の減少となった。

年齢別にみると、異常なしは加齢にしたがって減少している反面、要精検、要治療の割合が増加している。(図4.1、表4.1参照)

(2) 臓器別発見癌(本データは人間ドック、生活習慣病予防健診合算データ使用)

平成27年度に当センターで発見した癌の総数は57人である。(前年度比6人減)

臓器別にみると、大腸癌15人(前年度比1人増)、胃癌13人(前年度比1人減)、前立腺癌9人(前年度比3人増)、乳癌2人(前年度比9人減)、肺癌3人(前年度比1人増)、腎臓癌3人(前年度比1人減)、その他12人(前年度比±0)となっており、受診者総数に占める率は0.34%と前年度比0.03%減少している。(表4.2参照)

(3) 主要疾患別診断結果

当センターの疾患コードにより、主な疾患について年齢別に集計した。(1)の性・年齢別総合診断結果の項でも述べたように各疾患とも加齢とともに異常の比率が高くなっている。(表4.3、表4.4参照)

図 4.1 総合診断結果分類(平成27年4月～平成28年3月)

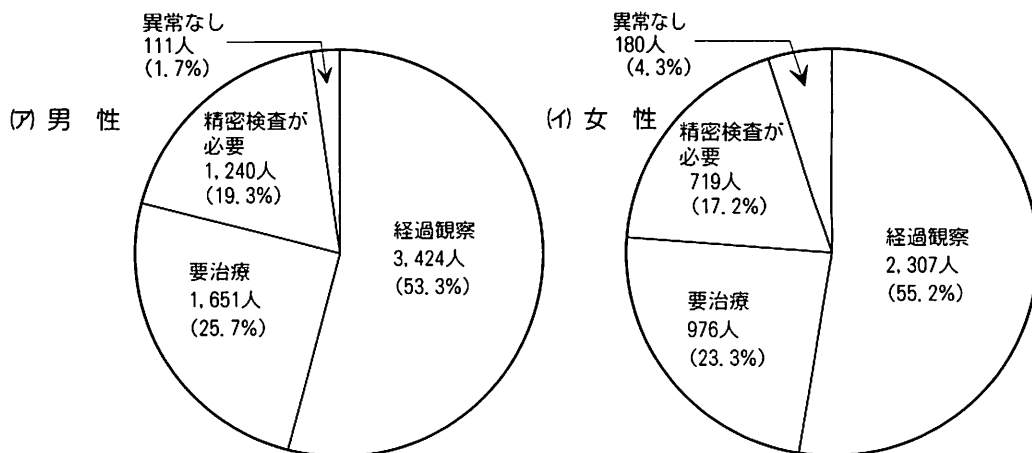


表 4.1 男女別・年齢別総合診断結果分類 (平成27年4月～平成28年3月)・(人間ドック受診者データ)

年齢別	診断結果 男女別	異常なし (軽度を含む)		経過観察		精密検査が必要		治療を要す (治療中を含む)		合計	
		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
29才 以下	男	3	33.3	4	44.4	1	11.1	1	11.1	9	100.0
	女	1	14.3	4	57.1	1	14.3	1	14.3	7	100.0
	計	4	25.0	8	50.0	2	12.5	2	12.5	16	100.0
30才 ～ 39才	男	36	8.4	236	55.1	48	11.2	108	25.2	428	100.0
	女	55	10.8	293	57.5	84	16.5	78	15.3	510	100.0
	計	91	9.7	529	56.4	132	14.1	186	19.8	938	100.0
40才 ～ 49才	男	55	3.1	948	53.7	223	12.6	541	30.6	1,767	100.0
	女	91	6.1	838	56.2	224	15.0	337	22.6	1,490	100.0
	計	146	4.5	1,786	54.8	447	13.7	878	27.0	3,257	100.0
50才 ～ 59才	男	13	0.6	1,081	53.6	384	19.1	537	26.7	2,015	100.0
	女	28	2.4	646	54.4	205	17.3	309	26.0	1,188	100.0
	計	41	1.3	1,727	53.9	589	18.4	846	26.4	3,203	100.0
60才 ～ 69才	男	4	0.2	871	53.4	393	24.1	364	22.3	1,632	100.0
	女	5	0.6	409	52.3	151	19.3	217	27.7	782	100.0
	計	9	0.4	1,280	53.0	544	22.5	581	24.1	2,414	100.0
70才 以上	男	0	0.0	284	49.4	191	33.2	100	17.4	575	100.0
	女	0	0.0	117	57.1	54	26.3	34	16.6	205	100.0
	計	0	0.0	401	51.4	245	31.4	134	17.2	780	100.0
合計	男	111	1.7	3,424	53.3	1,240	19.3	1,651	25.7	6,426	100.0
	女	180	4.3	2,307	55.2	719	17.2	976	23.3	4,182	100.0
	計	291	2.7	5,731	54.0	1,959	18.5	2,627	24.8	10,608	100.0

図 4.2 年齢別にみた悪性腫瘍の発見頻度

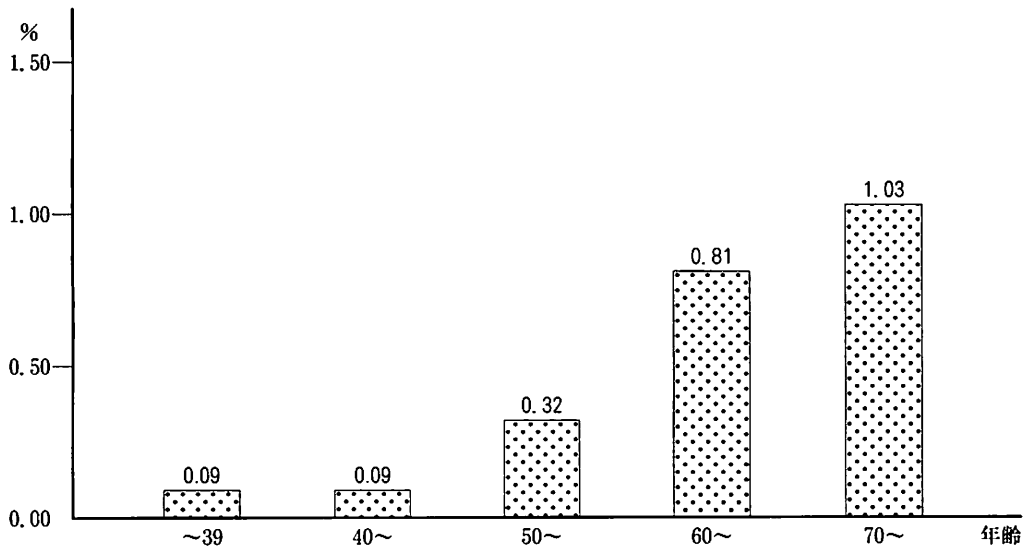


表 4.2 人間ドック、生活習慣病予防健診における臓器・年齢別悪性腫瘍数（平成27年4月～平成28年3月）

部位	年齢						合計
	～ 29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	
食 道					1		1
胃			1	2	5 2	3	10 3
大 腸		1	1	4 1	3 3	2	11 4
肺			1		1	1	2 1
肝 臓				2			2
腎 臓			1	1	1		3
前 立 腺				2	4 1	2	6 3
乳 房				1	1		2
子 宮		1	1				2
そ の 他				1 1	3 1	1	5 2
合 計	0 (0.0%)	2 (0.09%)	5 (0.09%)	15 (0.32%)	26 (0.81%)	9 (1.03%)	57 (0.34%)
人間ドック 受診者数	16	938	3,257	3,203	2,414	780	10,608
生活習慣病予防健診 受診者数	508	1,342	2,136	1,492	777	95	6,350
合計人数	524	2,280	5,393	4,695	3,191	875	16,958

(注) 上段：人間ドック、下段：生活習慣病予防健診

表 4.3 年齢・項目別診断結果（平成27年4月～平成28年3月）・（人間ドック受診者データ）

年 齢	29 才 以 下				30 ～ 39 才				40 ～ 49 才			
	軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身 体 計 測	4	25.0	0	0.0	337	35.9	0	0.0	1,386	42.6	0	0.0
視 力	2	12.5	0	0.0	8	0.9	0	0.0	43	1.3	0	0.0
眼 圧	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	1.2	0	0.0	45	1.4
聴 力	0	0.0	0	0.0	11	1.2	0	0.0	66	2.0	0	0.0
肺 機 能	1	6.3	0	0.0	83	8.8	12	1.3	384	11.8	40	1.2
血 圧	0	0.0	0	0.0	26	2.8	10	1.1	208	6.4	226	6.9
心 電 図	0	0.0	0	0.0	29	3.1	8	0.9	162	5.0	31	1.0
眼 底	1	6.3	1	6.3	27	2.9	17	1.8	116	3.6	79	2.4
胸 部 X 線	0	0.0	0	0.0	15	1.6	13	1.4	55	1.7	44	1.4
消 化 管 X 線	1	6.3	0	0.0	51	5.4	16	1.7	193	5.9	81	2.5
腹 部 超 音 波	4	25.0	0	0.0	393	41.9	5	0.5	1,903	58.4	34	1.0
血 液 一 般	0	0.0	1	6.3	56	6.0	59	6.3	179	5.5	240	7.4
脂 質	2	12.5	0	0.0	153	16.3	103	11.0	764	23.5	652	20.0
肝 機 能	0	0.0	1	6.3	219	23.3	18	1.9	909	27.9	101	3.1
ウ イ ル ス	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	32	1.0	4	0.1
脾 機 能	0	0.0	1	6.3	18	1.9	3	0.3	49	1.5	10	0.3
糖 代 謝	0	0.0	0	0.0	52	5.5	13	1.4	415	12.7	126	3.9
尿 酸 代 謝	1	6.3	1	6.3	79	8.4	58	6.2	314	9.6	279	8.6
骨 ・ 筋 肉	0	0.0	0	0.0	15	1.6	0	0.0	67	2.1	0	0.0
炎 症 反 応	0	0.0	0	0.0	37	3.9	0	0.0	167	5.1	0	0.0
腎 機 能	1	6.3	0	0.0	46	4.9	0	0.0	182	5.6	13	0.4
尿 一 般 ・ 沈 渣	1	6.3	0	0.0	220	23.5	28	3.0	738	22.7	121	3.7
便 潜 血	0	0.0	0	0.0	0	0.0	42	4.5	0	0.0	130	4.0
子 宮 が ん 検 査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	30	3.2	0	0.0	98	3.0
乳 が ん 検 査	0	0.0	0	0.0	23	2.5	28	3.0	39	1.2	72	2.2
対 象 者 数	16				938				3,257			

※ 軽度異常：「軽度異常」、「経過観察」

異常：「要精査」、「要治療」、「治療中」

50 ~ 59 才				60 ~ 69 才				70 才 以 上				総 数			
軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1,583	49.4	0	0.0	1,163	48.2	0	0.0	355	45.5	0	0.0	4,828	45.5	0	0.0
54	1.7	0	0.0	46	1.9	0	0.0	11	1.4	0	0.0	164	1.5	0	0.0
0	0.0	100	3.1	0	0.0	107	4.4	0	0.0	59	7.6	0	0.0	322	3.0
179	5.6	0	0.0	376	15.6	0	0.0	263	33.7	0	0.0	895	8.4	0	0.0
533	16.6	44	1.4	535	22.2	48	2.0	209	26.8	24	3.1	1,745	16.4	168	1.6
295	9.2	694	21.7	290	12.0	801	33.2	82	10.5	359	46.0	901	8.5	2,090	19.7
303	9.5	83	2.6	309	12.8	127	5.3	137	17.6	98	12.6	940	8.9	347	3.3
212	6.6	86	2.7	220	9.1	101	4.2	80	10.3	32	4.1	656	6.2	316	3.0
95	3.0	96	3.0	105	4.3	81	3.4	84	10.8	49	6.3	354	3.3	283	2.7
306	9.6	157	4.9	333	13.8	179	7.4	109	14.0	66	8.5	993	9.4	499	4.7
2,289	71.5	53	1.7	1,906	79.0	39	1.6	631	80.9	26	3.3	7,126	67.2	157	1.5
226	7.1	148	4.6	225	9.3	86	3.6	127	16.3	41	5.3	813	7.7	575	5.4
830	25.9	1,043	32.6	577	23.9	968	40.1	156	20.0	336	43.1	2,482	23.4	3,102	29.2
894	27.9	133	4.2	705	29.2	92	3.8	268	34.4	27	3.5	2,995	28.2	372	3.5
23	0.7	6	0.2	36	1.5	2	0.1	13	1.7	3	0.4	106	1.0	15	0.1
84	2.6	22	0.7	75	3.1	19	0.8	53	6.8	9	1.2	279	2.6	64	0.6
746	23.3	262	8.2	731	30.3	360	14.9	253	32.4	145	18.6	2,197	20.7	906	8.5
324	10.1	369	11.5	214	8.9	329	13.6	80	10.3	108	13.8	1,012	9.5	1,144	10.8
83	2.6	0	0.0	82	3.4	0	0.0	14	1.8	0	0.0	261	2.5	0	0.0
244	7.6	1	0.0	179	7.4	1	0.0	63	8.1	0	0.0	690	6.5	2	0.0
252	7.9	9	0.3	267	11.1	25	1.0	135	17.3	14	1.8	883	8.3	61	0.6
637	19.9	96	3.0	548	22.7	81	3.4	183	23.5	33	4.2	2,327	21.9	359	3.4
1	0.0	160	5.0	0	0.0	143	5.9	0	0.0	59	7.6	1	0.0	534	5.0
0	0.0	53	1.7	0	0.0	13	0.5	0	0.0	1	0.1	0	0.0	195	1.8
11	0.3	37	1.2	1	0.0	15	0.6	2	0.3	1	0.1	76	0.7	153	1.4
3, 203				2, 414				780				10, 608			

表 4.4 主要疾患別診断結果 (平成27年4月～平成28年3月) 対象者数10,608人・(人間ドック受診者データ)

疾患名	軽度異常		異常		疾患名	軽度異常		異常	
	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%
肥満	2,640	24.9	0	0.0	炎症反応陽性	233	2.2	0	0.0
やせ過ぎ	752	7.1	0	0.0	低カルシウム血症	4	0.0	0	0.0
視力低下	164	1.5	0	0.0	高カルシウム血症	30	0.3	0	0.0
高眼圧	0	0.0	322	3.0	低リン血症	174	1.6	0	0.0
聴力低下	895	8.4	0	0.0	高リン血症	44	0.4	0	0.0
高血圧	901	8.5	2,090	19.7	貧血	444	4.2	328	3.1
高L D L	1,881	17.7	1,532	14.4	多血症	7	0.1	96	0.9
低H D L	206	1.9	81	0.8	白血球減少症	151	1.4	14	0.1
高中性脂肪	1,388	13.1	168	1.6	白血球増多症	1	0.0	99	0.9
肝機能障害	1,547	14.6	225	2.1	血小板減少症	205	1.9	47	0.4
A L P 高値	208	2.0	0	0.0	血小板増多症	0	0.0	10	0.1
L D H 高値	437	4.1	9	0.1	尿糖陽性	129	1.2	22	0.2
低蛋白	211	2.0	5	0.0	尿路感染症	1	0.0	207	2.0
高蛋白	0	0.0	2	0.0	便潜血陽性	1	0.0	534	5.0
低アルブミン血症	299	2.8	9	0.1	心電図所見異常	940	8.9	46	0.4
Z T T 高値	754	7.1	53	0.5	眼底所見異常	656	6.2	255	2.4
高ビリルビン	237	2.2	0	0.0	胸部X線所見異常	354	3.3	275	2.6
H B ウィルス抗原陽性	84	0.8	9	0.1	消化管X線所見異常	992	9.4	354	3.3
糖尿病	0	0.0	690	6.5	胃内視鏡所見異常	752	7.1	21	0.2
境界型糖尿病	856	8.1	0	0.0	超音波異常・胆のう	2,259	21.3	18	0.2
糖尿病型	0	0.0	216	2.0	超音波異常・腎臓	2,996	28.2	36	0.3
食後高血糖	1,341	12.6	0	0.0	超音波異常・肝臓	4,784	45.1	16	0.2
高アミラーゼ血症	278	2.6	64	0.6	超音波異常・その他	1,116	10.5	91	0.9
高尿酸血症	1,012	9.5	563	5.3	乳房所見異常	56	0.5	110	1.0
リウマチ反応陽性	466	4.4	0	0.0	子宮頸部細胞診異常	0	0.0	28	0.3

5. 胃部（上部消化管）X線検査

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)の総合健診及び成人病健診受診者中、胃部X線検査受診者は13,209人(男性8,228人・女性4,981人)であった。

内、精密検査を必要とする受診者は474人(男性356人・女性118人)であった。

《A》 要精検者の精検受診状況及び精検結果の調査集計結果

本年度の要精検率・精検受診状況及び最近10年間の要精検率・精検受診率の推移、精密検査結果等の図表を示す。

【表・A-1】 要精検者数及び精検受診状況

要精検率は3.6%で昨年度(4.3%)より減少した。精検受診率は64.1%で昨年度(61.1%)と比べやや増加した。

また、精検受診者中当センター精検部門受診者は6人(2.0%)であった。

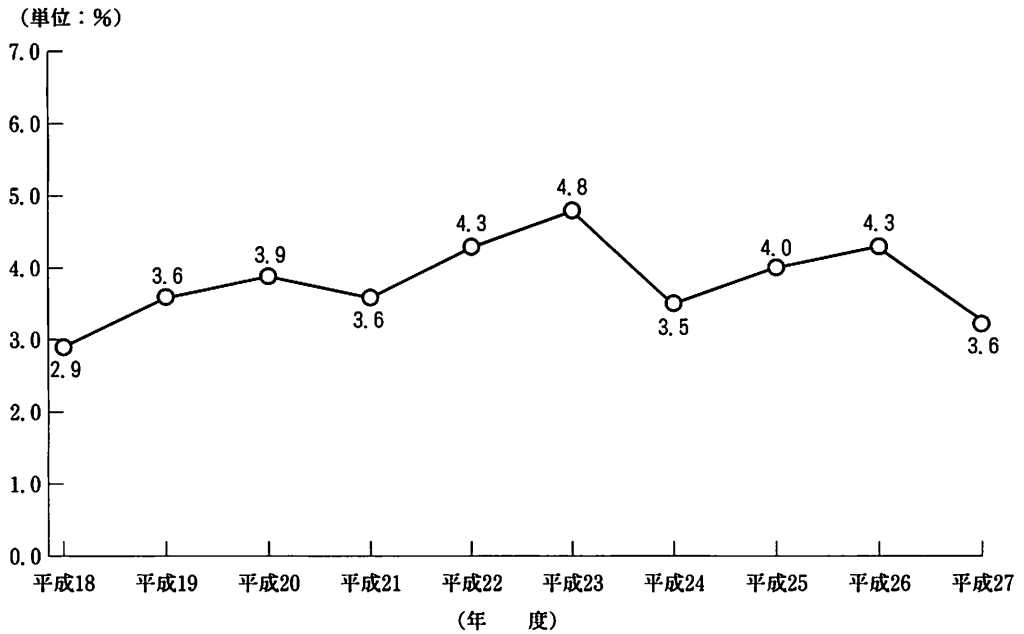
	受診者数	要精検者数	精検受診確認者数	未受診及び未確認者数
男性	8,228	356 (4.3%)	226 (63.5%)	130 (36.5%)
女性	4,981	118 (2.4%)	78 (66.1%)	40 (33.9%)
男女計	13,209	474 (3.6%)	304 (64.1%)	170 (35.9%)

※未確認者→精検を受診したか否か確認できなかった者

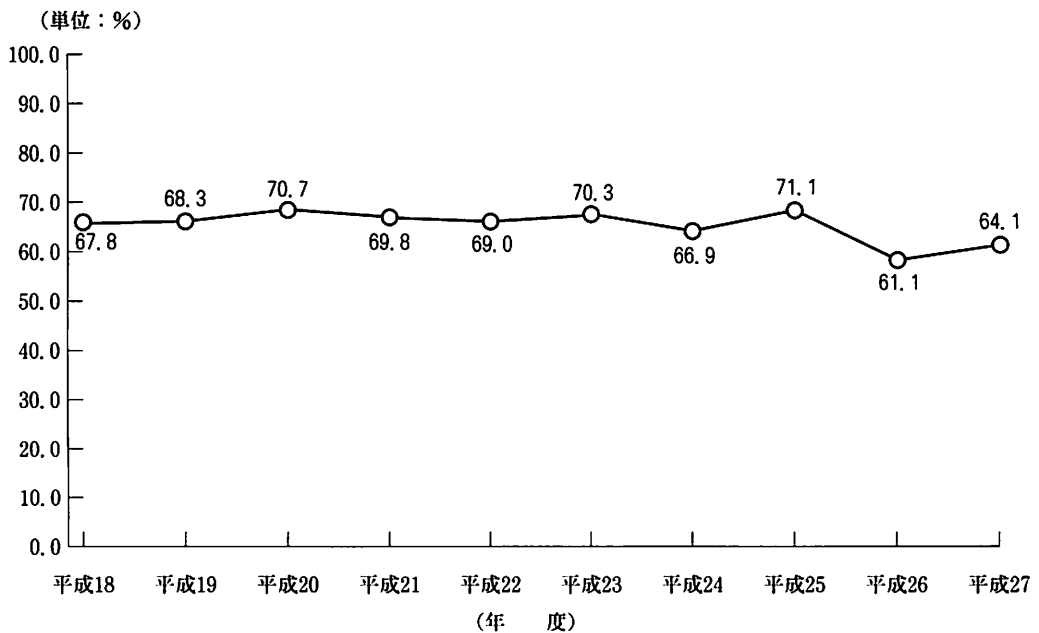
要精検者数の()内は胃部X線検査受診者に対する割合

精検受診確認者数・未受診及び未確認者数の()内は要精検者数に対する割合

【図・A-1】 最近10年間の要精検率の推移



【図・A-2】 最近10年間の精検受診率の推移



【表・A-2】 精密検査結果（精検受診者=304人）

疾 患 名	確 定 疾 患 数 ※		
	男 性	女 性	男 女 計
食 道 癌	1	0	1
胃 癌	10	0	10
十二指腸癌	0	1	1
胃 腺 腫	1	1	2
食 道 潰 瘍（癒痕含む）	1	0	1
胃・十二指腸潰瘍（癒痕含む）	6	2	8
胃 潰 瘍（癒痕含む）	22	2	24
食 道 ポ リ ー プ	5	1	6
胃 ポ リ ー プ	33	23	56
食 道 粘 膜 下 腫 瘍	3	1	4
胃 粘 膜 下 腫 瘍	10	4	14
十 二 指 腸 潰 瘍（癒痕含む）	3	5	8
十 二 指 腸 ポ リ ー プ	2	0	2
上 記 以 外 の 疾 患	113	30	143
異 常 な し	16	8	24
計	226	78	304

※1人1疾患とし上記順(食道癌→異常なし)とした。

《B》 上部消化管悪性腫瘍患者の発見数及び発見率

平成27年度の上部消化管X線検査で発見された悪性腫瘍患者は

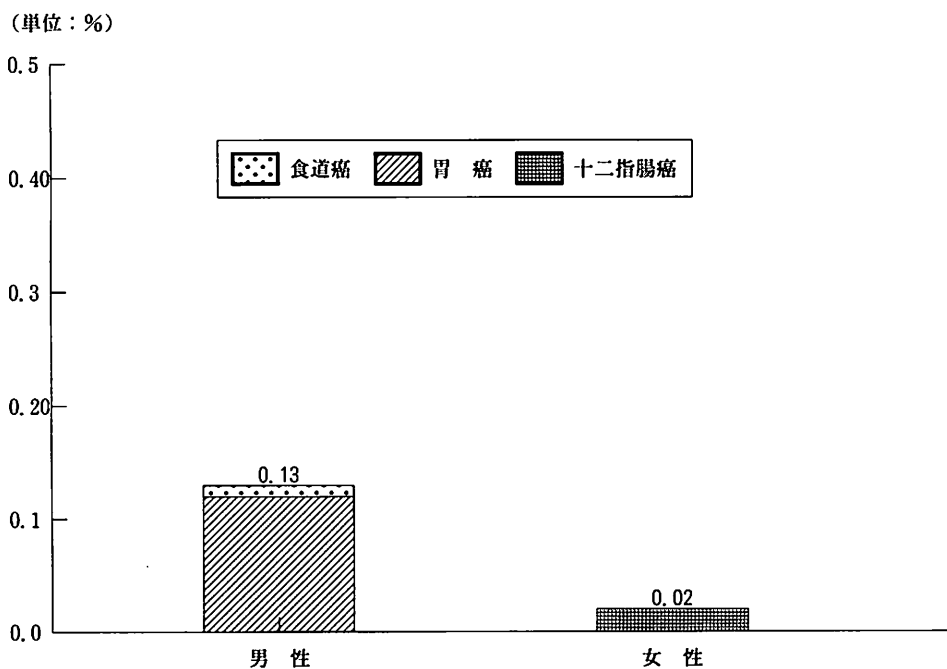
発見数=12症例（人）

発見率=0.09%であった。

【表・B-1】 男女別上部消化管悪性腫瘍患者発見数及び発見率

	受診者数	食道癌	胃癌	十二指腸癌	悪性腫瘍計
男性	8,228 (62.3%)	1 (0.01%)	10 (0.12%)	0 (0.0%)	11 (0.13%)
女性	4,981 (37.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.02%)	1 (0.02%)
男女計	13,209 (100%)	1 (0.01%)	10 (0.08%)	1 (0.01%)	12 (0.09%)

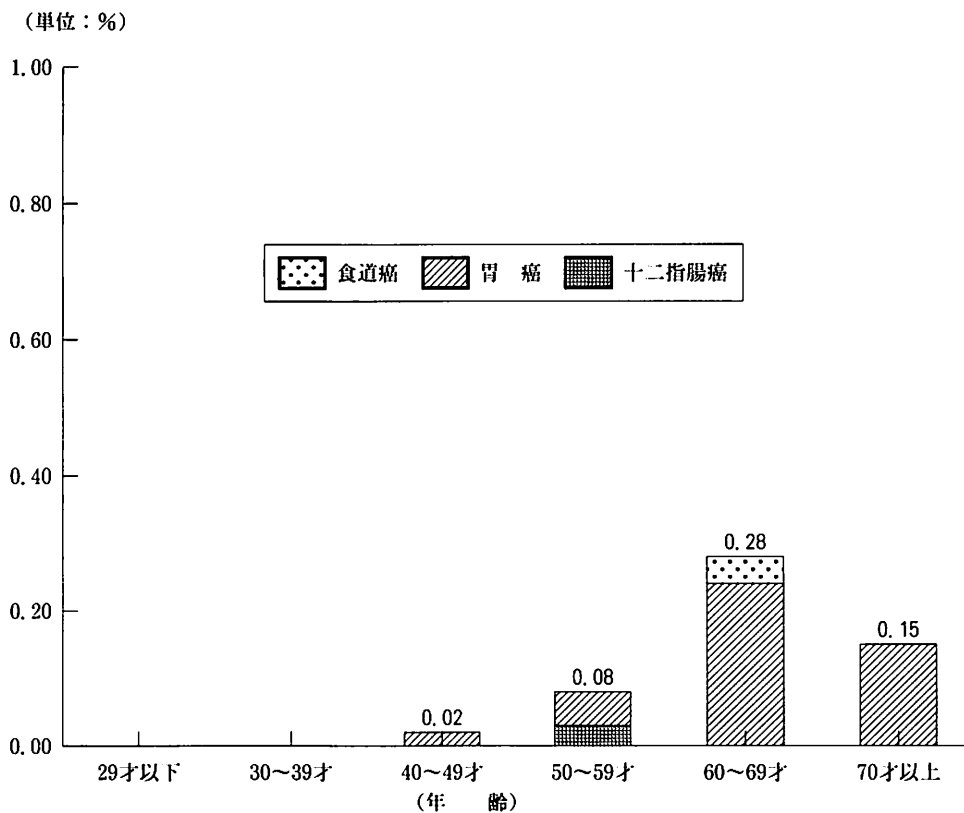
【図・B-1】 男女別上部消化管悪性腫瘍患者発見率



【表・B-2】 年齢別上部消化管悪性腫瘍患者発見数及び発見率

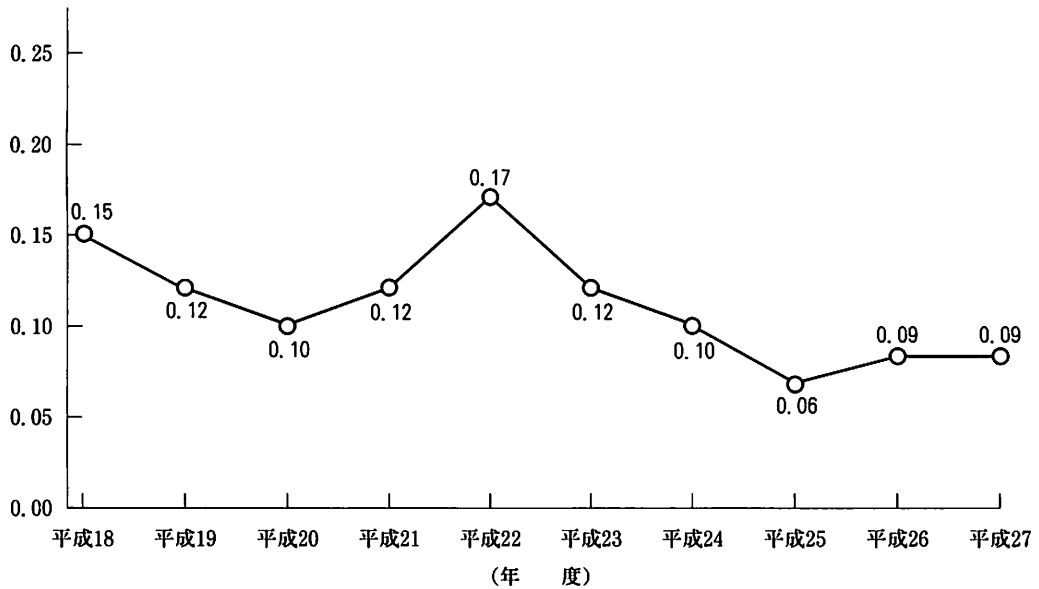
年 齢	受診者数	食 道 癌	胃 癌	十二指腸癌	悪性腫瘍計
29才以下	35 (0.3%)	0	0	0	0
30～39才	1,595 (12.1%)	0	0	0	0
40～49才	4,537 (34.3%)	0	1 (0.02%)	0	1 (0.02%)
50～59才	3,832 (29.0%)	0	2 (0.05%)	1 (0.03%)	3 (0.08%)
60～69才	2,545 (19.3%)	1 (0.04%)	6 (0.24%)	0	7 (0.28%)
70才以上	665 (5.0%)	0	1 (0.15%)	0	1 (0.15%)
合 計	13,209 (100%)	1 (0.01%)	10 (0.08%)	1 (0.01%)	12 (0.09%)

【図・B-2】 年齢別上部消化管悪性腫瘍患者発見率



【図・B-3】 最近10年間の上部消化管悪性腫瘍発見率の推移

(単位：%)



《C》 発見胃癌の早期癌率

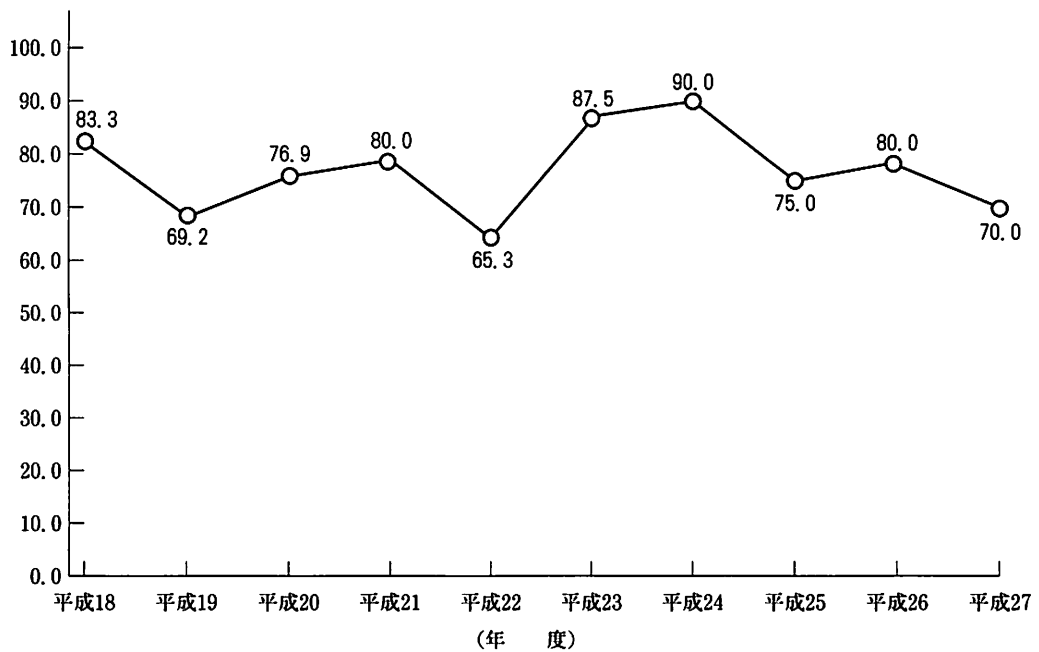
発見胃癌10症例中、早期胃癌は7症例であった。(症例=人)

(手術所見未確認の症例は内視鏡所見による)

∴早期癌率=70.0%

【図・C-1】 最近10年間の早期癌率の推移

(単位：%)



6. 胸部CT検査

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)のCT検査受診者は、総合健診の胸部X線検査に於ける要精検者・経過観察者及び他施設紹介者等の一次精検としての胸部CT検査を昨年度(18人)より多い49人(男性20人・女性29人)、MDCTによるオプションの胸部CT検査を昨年度より5人少ない486人(男性350人・女性136人)、合計、昨年度より44人多い535人(男性370人・女性165人)に実施した。

○胸部X線検査の要精検者など(49人)の結果を報告する。

疾患名	男性	女性	男女計
肺 癌	0	0	0
悪性リンパ腫	0	1	1
活動性肺結核	0	0	0
陳旧性肺結核	0	0	0
炎症性疾患	10	16	26
ブラ・ブレブ	3	1	4
胸膜肥厚・癒着	0	1	1
その他の疾患	2	2	4
異常なし	3	5	8
精検未確認者	2	3	5
合計	20	29	49

※要二次精検(気管支鏡等)者中、精検受診者はその結果とし、精検結果未確認者は精検未確認者とした。
※1人1疾患とし上記疾患名の上から順位とした。

○オプションの胸部CT検査受診者(486人)の結果を報告する。

疾患名	男性	女性	男女計
肺 癌	1	0	1
活動性肺結核	0	0	0
陳旧性肺結核	0	1	1
無 気 肺	0	0	0
炎症性疾患	122	53	175
ブラ・ブレブ	39	4	43
胸膜肥厚・癒着	8	2	10
その他の疾患	43	19	62
異常なし	120	52	172
精検未確認者	17	5	22
合計	350	136	486

※要精検者中、精検受診者はその結果とし、精検結果未確認者は精検未確認者とした。
※1人1疾患とし上記疾患名の上から順位とした。

7. 乳房検査

○マンモグラフィ検査(視触診併用)

NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構が認定する、有資格者のマンモグラフィ読影医師および撮影技師と視触診医師が担当している。

平成27年度のマンモグラフィ検査の総受診者数は、前年度に比べ239人増加の2,447人であった。年齢別構成は40才代が45.4%と最も多く、50才代の29.8%、60才代の12.9%と続く。

検診方法

撮影は富士フイルム社製フラットパネル搭載マンモグラフィ装置AMULET(直接変換方式)、読影は5Mモニタによるソフトコピー診断を行っている。

視触診、マンモグラフィで異常を指摘した要精密検査者および要経過観察者(3カ月・6カ月)には、専門機関での検査・診断の参考画像として、全員にCDを送付している。希望施設にはハードコピー(写真)を送付している。

*ソフトコピー：デジタル画像をモニターに表示したもの。

*ハードコピー：デジタル画像をフィルムにプリントしたもの。

精密検査結果(精検受診者数：157人)

今年度の要精検率(視触診併用のため視触診での要精検も含む)は、受診者2,447人中211人の8.6%となり、昨年度の6.4%より上昇した。

*精検受診者：要精密検査者中、追跡調査にて精検受診が確認できた者としている。精検結果においても同様である。

異常なし：56人、良性疾患：101人、乳がん：0人

疾患名	乳がん	乳腺症	のう胞	線維腺腫	その他	計
確定数	0	26	34	17	24	101

がん発見成績

平成27年度のがん発見数は0人であり、がん発見率は0.00%を示した。

年度	総受診者数	要精検受診者数	精検受診者数	乳がん数
平成23年度	1,817	159 (8.8%)	111 (69.8%)	9 (0.50%)
平成24年度	2,041	132 (6.5%)	96 (72.7%)	4 (0.20%)
平成25年度	2,122	120 (5.7%)	88 (73.3%)	7 (0.33%)
平成26年度	2,208	141 (6.4%)	111 (78.7%)	11 (0.50%)
平成27年度	2,447	211 (8.6%)	157 (74.4%)	0 (0.00%)

8. 研究成果発表等

第44回 日本総合健診医学会(平成28年1月 於：東京)

「健康寿命延伸に向けた当センター総合健診受診者の抱える課題」

一般財団法人 みどり健康管理センター

○康 真紀 高垣裕美子 田中 和子
中西 英子 堺 義子 南 慶子
辻野 京子 井出 政和 古林 孝保
徳永 勝人

〔目的〕

超高齢化社会の我が国において、健康寿命の延伸は喫緊の課題である。寝たきりや介護を要する原因の第1位である脳心血管病のリスク因子について、当センター総合健診受診者の課題を検討した。

〔対象〕

平成25年度総合健診受診者11,168人(男性7,170人、女性3,998人)、平均年齢53.2歳(男性54.1歳、女性51.4歳)。

〔方法〕

喫煙、高血圧、運動習慣、高血糖、高LDL-C血症、肥満者率を当センター総合健診受診者(A群)と全国調査の国民健康・栄養調査報告(B群)で比較した。両群の年齢構成に差があったため、比較は年代別に行った。

〔結果〕

1. 喫煙率は、男女とも全年代でA群が低かった。2. 高血圧者率は男女とも両群で年代があがるにつれ増加したが、どの年代でもA群は男女ともB群の半分以下と低かった。3. 運動習慣が無い者は、男女両群ともに30～50代で70%を超えていた。4. 高血糖者率は、男女とも両群で年代とともに増加し、60代以上で30%を超えた。男性は60代まではA群が多く、30、40代ではB群の2倍以上だった。5. 高LDL-C血症者率は、女性は両群とも50、60代で高くなり30%を超えた。6. 肥満者率は男性全体では両群ともほぼ30%で、40、50代が高値だった。女性のA群の肥満者率は、ほぼ全年代で20%以下で、B群より低値だった。

〔考察〕

当センター総合健診受診者は、死因への寄与が大きい喫煙、高血圧者率が男女ともに低く、健康寿命の延伸に優位と思われた。課題は30～60代男性の高血糖者率が全国調査より高かったことである。両群共通の課題は、男性全体の肥満者率と女性の50、60代の高LDL-C血症者率がともに約30%であったこと、男女とも運動習慣のない者が多く、60代以上の高血糖者率が30%を超え多かったことである。